

コミュニティ静岡



あなたのまちの
コミュニティ活動情報誌

2015
10月
No.140

地域の方が先生に「模様こて砂絵」体験



上塗り土「じゅらく」に色を付けたものをこてを用い塗りつける

牧之原市生涯学習ボランティア「スマイル」(牧之原市)

▼スマイルは「青少年の豊かな感性、健やか心身と社会性をはぐくむ体験的学習の推進」をモットーに、青少年とボランティアに賛同する有志の方々とのふれあいを大切に活動している。

▼去る8月8日、スマイルの会員であり、現役左官業の八木国夫さんが講師となり「模様こて砂絵」体験会を開催した。小学生を対象に、左官仕事で使用する「こて」を用い、日本の四季折々の動植物が下書きされた型紙をB4判のベニヤ版に貼り付け、「こて」を用いて様々な色を塗り付け仕上げていく。制作には集中力と根気が必要で、完成まで

に1時間30分程かかりさらに乾燥に30分は要する。個々の色付けにより同じこて絵にはならず、オンリーワンの絵が出来上がる楽しさがある。再度制作に挑む子どももいた。

▼絵の制作といえば筆を用いるが、左官は「こて」を用い絵を描く。身近ではない技法を地域の身近な「おじさん」に教わり、日本の職人技を体験できた素晴らしい一日となった。

◇代表：鈴木正樹さん（問合せ・☎0548-52-3349）

【情報提供・大石通之】

Contents No.140

| | | |
|---------|--------------------------|-----|
| 各地の活動 | ●牧之原市 | 1 |
| クローズアップ | ●さかなのまちに「夏のあかり展」(焼津市) | 2 |
| 地域をつなぐ人 | ●徳不孤必有隣(徳は孤ならず必ず隣あり) | 3 |
| 各地の活動 | ●河津町、熱海市、静岡市、島田市、掛川市 | 4~5 |
| 地域訪問記 | ●地域とつながり、子育てに自信を付ける(磐田市) | 6 |
| コミねっとから | ●キラリ!コミねっとなど | 7 |
| コミ推協から | ●コミュニティ活動賞など | 8 |



コミック
のりづき・りえ

クローズアップ

さかなのまちに「夏のあかり展」

NPO法人「浜の会」 (焼津市)

全国屈指の漁業のまち「焼津」に、かつて中心地として栄えた浜通り地域を取り戻そうとNPO法人「浜の会」が平成19年4月に設立された。漁業の歴史・文化の情報発信基地として人の集まるにぎわいを求め、市民の憩える場づくりを目指して「夏のあかり展」を開催している。

「夏のあかり展」

今年で8回目を迎えた「夏のあかり展」は、7月31日から3日間、浜通りの380mを歩行者天国にして、段ボール製の行灯（あんどん）、孟宗竹を利用した燈籠（とうろう）などを民家の前に800個並べて行き交う人々の交流を図っている。協賛イベントとして「あかり工芸展」（市工芸協会）、石燈籠の展示（市石材事業組合）、絵画展、写真展も開催された。また、通りの民家やお寺では、フォークソング・雅楽・三味線の演奏も行われ幽玄の世界をより一層醸し出した。開催期間中6,500人という多くの人たちが訪れた「夏のあかり展」について清水理事長はじめ役員の方にお話を聞いた。



さまざまな形の行灯。明りに誘われ集まる人々に交流が広がる



段ボールの3面を飾る行灯づくり。多くの方の協力で出来た

アイデアを活かした活動

燈籠用の孟宗竹を山から切り出し・加工したり、行灯用の段ボールを切断・製作し環境にやさしい手法を用いている。特に行灯の絵は、市美術協会、公民館で活動する絵手紙の会・墨絵教室など市民の愛好家や、幼稚園・保育園児らが描いてくれるなど、市民を巻き込んだ活動をしている。清水理事長は「なまり節など水産加工品の梱包に使う木箱、段ボール箱などを行灯の材料として使い焼津らしさを出している」と焼津ならではの取り組みに誇らしげだった。

地域との連携

明治の文豪である小泉八雲は焼津の海が気に入りに、明治の後半数年にわたり夏のひとときを家族と共に浜通りの山口乙吉宅で過ごした。八雲は地域の人々との交流や温もりあふれるふれあいで大変尊敬された。こんな人柄の良い浜通り地域では、「あかり展」に対する沿道住民の理解が深まり、協力体制が回を重ねるごと強化されてきた。開催期間中は、行灯・燈籠の保管と掲出、光源電力の提供など市民との協力が出来てきた。神田事務局長は「地域住民、特に沿道に住んでいる住民の協力なしでは開催出来ない」と強調された。

これからの「夏のあかり展」

「夏のあかり展」担当の長岡理事は、「約4ヶ月の準備期間中は、企画から広報、関係機関への協力依頼、竹の切り出し・加工など忙しく厳しい面もあるが、工夫しながら企画運営をしていきたい」と企画部員の熱意を代弁していた。

神田事務局長は「浜の会の会員も高齢化が進み、作業の負担も大きいので、若い会員が増えることを期待しています。イベントの規模は拡大しないが、中身は工夫して充実



孟宗竹灯笼1つ1つにロウソクを入れてゆく



孟宗竹をくり抜いた笑い灯笼

させていきたい」と語り、今まで以上に多くの皆さんの参加を希望するとともに、今後の取り組みに意欲を燃やしていた。

◇代表：清水栄男さん

(問合せ・事務局 090-3308-1379)

【情報通信員・関 富美子】



レポート・鈴木孝治 編集委員

■地域をつなぐ人

『徳不孤必有隣』

ふれあいサタデーパーク 杉本卓也 氏



出会い、ふれあい、学びの場

子どもたちの社会性やコミュニケーション力の向上を目指し、平成14年藤枝駅南地区の田沼で「人と人が出会い、ふれあうことのできる場づくり」にボランティア活動としてチャレンジした。会場は、身近にある公会堂とそれに隣接する公園を拠点とし、毎月第2、4土曜日の午前中を活動の日と定めた。活動内容は、さまざまな子どもが参加できるよう農業体験や地域探訪、伝統芸能や国際交流、各種工作さらには中山間地や他校の子どもたちとの交流など実行可能なものを幅広く取り上げ、活動の魅力向上とマンネリ化防止に心掛けた。

受け止めた風をエネルギーに変える

さて、いざスタートしてみると子どもは集まらず、失望と課題ばかりが残った。しかし、「急がず、慌てず、諦めず」をモットーに続けていくと同士も見つかり、人のつながりや広がりが力となって課題への対応も見えてきた。「楽しい!」という子ども

の口コミで小学生の男女が集まり、中でも元気旺盛な3～4年生が活動を盛り上げてくれた。

試行錯誤の連続は、次の活動へのエネルギーとなり、また、為すことは自らの学びであった。行動すれば必ず風が生じた。厳しい風もあったが、心を温めてくれる風もたくさんあった。

徳は孤ならず必ず隣あり

ところで、活動がここまで続けてこられたことは、元気に参加してくる子どもたちや活動を理解して下さる保護者の方々、そして活動を支援していただく関係機関や各種団体、そして地域サポーターなど多くの方々のおかげと感謝している。

終わりに、今の気持ちを短い言葉で表すならば「徳不孤必有隣」という論語の一節を引用してみたい。これからも人を信じもっと人が好きになれるよう沢山の人と関わって生きていきたい。

まちから・むらから

●河津町



地元の方も近隣移住者の方もいらっしやい

移住者と地元住民の交流「手むすびの市」

手むすびの会

▼伊豆への移住者と地元住民の交流とつながりを目的に結成された手むすびの会は、移住した方が経営するカフェの客同士が知り合いつながった仲間

で構成されている。会員は旧住民と新住民の計12人で、会員同士の交流、情報交換、月1回のゴミ拾い、年2回のフリーマーケットを行っている。

▼河津桜観光交流館駐車場で行われるフリーマーケット「手むすびの市」は、フリーマーケット＝販売イベントと思われがちだが、そうしたイベントではなく、住民と出店者の交流、出店者同士のつながりを持つことを目的に行われている。出店のジャンルに決まりはなく、多種多様な店は、河津町以外の伊豆地域からが多く、移住者の出店も多く見受けられる。実際につながりが出来たという声があり、うれしい限りである。

▼今後、移住希望者に対し地域の特徴などについての情報発信や相談に乗るなど、地域の活性化に一役買えたら良いと思っている。

◇代表：鈴木克彦さん（問合せ・☎090-1982-3475）

【情報提供・飯田敏晶】

●熱海市

孤独感の解消と気分転換、つながる介護

熱海市在宅介護者の会

▼当会は、寝たきりや認知症及び重度の心身障害者（児）を在宅介護している方々が相互の交流を図るとともに、関係する専門機関と連携を深め、介護者のサポートを図ることを目的として熱海市社会福祉協議会の協力を仰ぎながら活動をしている。

▼主な活動は、福祉サービスや介護用品などの紹介、施設見学や認知症などの勉強会、料理教室、親睦旅行などである。特にこれらの活動の終わりには毎回会員から近況報告があり、介護での悩みなども話し合うことで、孤独感の解消と気分転換ができる。会員にとって大切な時間である。

▼熱海市は、人口減少と超少子高齢化によって、介護者も多いはずだが、会員が増えない。核家族化により「預け先がないから参加できないのではないか」と代表

は言う。このような現状を解決するにはどうしたら良いのか、今後の課題である。熱海市内で在宅介護をされている方、介護経験者の方、仲間になりませんか？御連絡ください。



オムツの当てかた講習

◇代表：高橋鈴恵さん

（問合せ・☎0557-86-6339（熱海市社会福祉協議会））

【情報提供・菅沼敏男】

●静岡市



今年の歴史講座の一コマ

郷土の歴史を楽しく学ぶ

清水郷土史研究会

▼清水郷土史研究会は、平成2年に旧清水市の歴史や文化に関心を持つ仲間が集まり、史実に基づいた確かなものを

を後世に伝えていくことを目的に活動している。会の特色は、古代、中世、近世などの時代区分にとらわれず、さまざまなジャンルのものを静岡市域を中心に研究していることや事務局を静岡市立清水中央図書館に置き、図書館事業とタイアップした活動を行っていることである。

▼毎年8月に図書館との共催で開催する「やさしい郷土の歴史講座」。第8回目の今回は、徳川家康公没後四百年という記念の年に合わせ、徳川家康をテーマに8月の3日間開催した。講師は、会員3人が務め、延べ260人が聴講した。

▼会では、研究成果を一冊の本にまとめた「清見瀧」を発行している。本年度24冊目を発刊し、静岡の歴史を後世に伝えるため、静岡市内の高校の図書館に贈呈する計画を立てている。今後も歴史研究の成果を披露しながら地域の文化活動に貢献していく。

◇代表：佐野明生さん

（問合せ・090-5851-5426（火・金の午前中受付））

【情報提供・橋本ムツ子】

各地の活動

各地の活動情報

● 島田市



感謝祭の健康相談コーナー

市民全体で医師を支え大事にする地域に 島田市地域医療を支援する会

▼地域医療の崩壊が全国的な問題となっていた平成21年に「島田市の地域医療の現状を把握し支援したい、医師の応援が出来ないのか」と市民の有志により

つである街頭キャンペーンでは、市内のショッピングセンターなどで、全会員が救急医療への理解や適正受診、医療関係者への感謝の気持ちを持つことを呼びかけるなど啓発運動を行っている。また、出前講座や学習会などの企画は、3つの医師会や市民病院関係者が積極的に関わってくださり、逆に支援されていると実感感謝している。

▼9月6日には「地域医療に感謝！」と銘打って初のお祭りを開催し、沢山の人でにぎわった。「市民、行政、医療機関、教育機関、この4輪が連携して回っている限り医療環境は後退しないだろう」と代表は語る。

◇代表：神代醇一さん（問合せ・0547-37-7695）

【情報提供・北川修一】

発足した団体である。

▼これまで市民を対象とした学習会やシンポジウム、地域へのお出前講座などの活動を通じて、地域医療・福祉などに関する知識の普及啓発と市民が安心して暮らせる医療環境を整えることを実践している。活動の1

● 掛川市

「原谷史は面白い」を合言葉に仲間づくり

原谷史学習会

▼原谷史学習会は、原谷の歴史をテーマに佐藤代表が退職を機に仲間と立ち上げた、誰もが自由に参加できる学習会である。地元の歴史を掘り起し、地域住民に伝えていこうと活動を続けている。

▼毎月第3土曜日の午前中に地区の学習センターで行われる定例会は、地元住民はもちろん、遠くは富士宮から25人程度が参加しており、毎回2、3人の講師が、郷土の偉人、史跡、古地名考、民話や伝説、昔の風習など多彩な発表をする。

この会の一味違うところは、聴講者がそのことについて自由に話し合う場を発表時間の半分設けていることである。ユーモアセンスのある方や専門分野に詳しい方などが和気あいあいとなる雰囲気が高く！時には白熱し、会が終わった後も話し込む人も

いる。「参加者から『行かないと損した気分になる』と言った声もありうれしく思う。原谷の歴史を多くの方に知ってほしい」と佐藤代表は言う。歴史に興味のある方、いつでも御参加ください。

◇代表：佐藤収一さん（問合せ・0537-26-1761）

【情報提供・山崎智行】



意見交換会で刺激を受け合います

地域活動情報

この詳細はホームページでご覧になれます（アドレス <http://www.sizcom.jp>）

| No | 市町 | 活動名 | 主催者 | 月日 | 場所 |
|----|------|---------------------------|---------------------------|--------------------------|------------------------|
| 1 | 東伊豆町 | 地場産品で地域活性を！ | 伊豆地場産業研究会 | 毎週土、日、祝 ミーティングは不定期 | 稲取港の朝市と伊豆地区のイベント会場での出店 |
| 2 | 西伊豆町 | 地元を歩いて再発見！ | 仁科地区まちづくり協議会 まち歩き部会 | 年 3回 7・10・3月 | 西伊豆町内 |
| 3 | 沼津市 | 健康マージャン | 牛臥自治会みどりの会 趣味の会（木曜会） | 週 1回 11：00～16：00 | 自治会公民館 |
| 4 | 裾野市 | みどり作業所回収空き缶分別作業 ボランティア | 裾野市民生児童委員 | 毎週水曜日 10:00～12:00 | みどり作業所 |
| 5 | 静岡市 | もちむね向井水軍まつり | 用宗活性化協議会 | 平成27年9月21日 9:00～15:00 | 県道416静岡焼津線 |
| 6 | 御前崎市 | 地域で仲間づくり、健康づくりを 実践 | ヘルスアップ教室 | 月 1回 | 御前崎市内 |
| 7 | 菊川市 | 河城小学校4年生「宿泊体験スクール」の活動 | 河城地区コミュニティ協議会 豊かな心を育む部 | 平成27年8月7日、8日 毎年8月に開催 | 菊川市東富田、火剣山のキャンプ場 |

地域訪問記

地域とつながり、子育てに自信を付ける ～ボランティアによるお母さん応援隊～

井通地区社会福祉協議会（磐田市）

核家族化により幼稚園・保育園に行く前の幼児を持つ親は孤立しがちである。一対一の関係が日常的に続き母親はストレスによって心身をすり減らし、特に初めての子を持つ母親は経験もなく不安に陥りやすい。そんな母親を応援しようと磐田市井通地区では市役所の指導のもと、平成23年から子育て支援講座が始まった。現在では井通地区社会福祉協議会が中心となり、保健師さんが関わりながら運営している。

「つながり」は心の支え 講座+託児



最初に保健師さんから人形を使って指導を受け、いざ実践の中学生

講座名「Nobody's perfect完璧な親なんていない」（以下NP）とは、簡単に言ってしまうと「お母さん応援プログラム」。子どもの健康・安全・しつけを中心に自分自身が既に持っているスキルをより高め、自分の

長所や能力に気づき、親としての自信をつけることが目的である。お母さんは7月～9月の間、全6回の講座を受けることにより、自分自身の行動や考え方を認め、自分以外の人のかんことを考えられるよう変化していく。一方、お母さんが積極的に学習できる環境を提供して講座を支えるのは「託児ボランティア」の面々である。地域住民によるボランティアには、大先輩お母さんをはじめ、夏休み期間中の開催のため地元の中学生や福祉専門学校生が毎年参加している。学生らの楽しい託児体験は、初めての乳幼児との触れ合いに戸惑いながらも、将来の職業選択のための座学では学べない生きた就業体験となっていた。

苦しいのは自分だけじゃなかった！

参加したお母さんは「苦しいのは自分だけじゃなかった。話すことによって心が軽くなって、子どもの愛しさへの再確認になった」。今まで誰にも吐露できなかった心の叫び、自分が自分であることの大切さを実感しているようだ。

NPの進行役の方も、「この講座は地域に視点を置いて開催しているため、井通交流センターを通じてお母さん同士、託児ボランティアとお母さんという地域の方々との『つながり』が密になる仕組みになっています」と、井通地区の取り組みについて高い評価をしていた。



たくさん飲んで大きくなってね

代表の横家さんは、「お母さんたちは講座終了後も自主的に会っており、つながりが出来ることによって、市の育児相談などにも出やすくなっているようだ。毎年ボランティアを集める苦労はあるが、お母さんたちの生き生きとした姿や赤ちゃんの表情の変化、成長ぶりを見ると嬉しい。ボランティアを通じて顔見知りができ、お母さんたちと地域がつながり、地域で支える子育て支援を醸成したい」と語る。

自分を認める 相手も認める



終了後、託児ママから今日の様子を聞く

井通地区のこのスタイルは地域社会に密着した未来志向の子育て応援のようである。家庭が一番小さな社会であり、地域社会、ひいては日本の形を作る基であると感じる。

一人ひとりが自分を認め、相手を認めることは年代を超えて人として最も大切な地域づくりの胆なのかもしれない。

◇代表：横家哲郎さん（問合せ・090-1863-4916）

【情報提供・羽田栄子】



レポート：中村弘美 編集委員

キラリ!
コミねっと

コミカレ・ねっとわーく会員の活動紹介します!

浜松市蒲地区 (浜松市)

～地域に根付いたボランティア活動～

浜松市東区の「浜松市蒲地区」は、コミねっとの会員が集まって一緒に活動をしているわけではない。だが、会員の共通の活動として、各町内での高齢者サロンでボランティアとして活動している。会員は、蒲生活学校や民生委員、婦人会などにも所属しており、これらの活動で月に何度か顔を合わせた際に、より楽しいサロンにするための情報交換を行っている。

Qどんなサロン活動をされていますか？

A、介護予防と引きこもり予防を目的とした活動です。蒲地区には10町1団地のサロン活動があり、そのうちの5町にコミねっとの会員がいます。月に1、2回公民館に集まり、合唱、四字熟語クイズ、小旅行、ストレッチ、カルタ取り、歳時記行事などをサロンごとに企画・準備し開催しています。子育てサロンも1町が開催しています。

Q、楽しい活動ができています。秘訣を教えてください！

A、5町にいる会員同士で「あの講師は良かった」「この制度を利用して事業を行った」など常に情報交換していることです。最近では、カルタ取りが盛り上



静岡生活学校作「環境エコかるた」で盛り上がります

がることを聞き、各町内会に広がっていきました。

また、現会員は7人ですが、コミカレ修了生は地区にたくさんいます。あえて言うならば、蒲は、周りがみんな知り合いなので、活動や情報交換がしやすいことです。

Q 今後の活動について

A、現在の活動は、人とつながり、地域とつながり、地域の中で着実に根付いていると自負しています。今後「出ないと損する」と思わせるサロンを目指します。

コミカレ
研修スナップ

通算 36 回目となる本年度の「コミュニティカレッジ」が9月26日に終了しました。

今年は、68人の受講者のうち学生が23人、3分の1となり、活発な意見交換、世代間交流が生まれました。

これからの地域での活動やコミねっとへの参加など期待します。

コミカレ終了!今後の活躍を期待します!



アイスブレイクの1コマ



第1回目講座「コミュニティづくり」



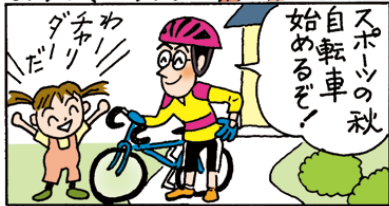
現地訪問での班別意見交換会



第4回目講座「課題解決の企画書づくり」

コミン家

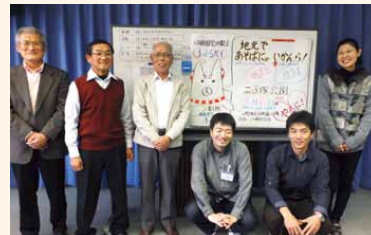
のりうき・りえ



「出張コミュニティカレッジin駿豆」を開催！

明るく住みよい地域社会を築くため、一人一人がコミュニティの中でそれぞれの役割を果たすことは大変重要です。コミュニティ活動を進める上で必要な知識やスキルを改めて学んでみませんか？

募集定員：駿豆地域から
30人前後（先着順）
応募条件：2日間とも出席可能な方
受講料：無料



当協議会へ直接、お申し込みください。
※応募の締切りは、平成27年10月30日（金）です。

| 日時 | 研修内容 | 会場 |
|----------------------------------|---|-----------------|
| 平成27年 11月14日（土） 9:30～15:30 | ・開講式 アイスブレイク・自己紹介 「地域活動の課題のを見つけ方」 講師：飯倉清太氏 | 三島市 市民活動センター |
| | 「コミュニティづくり」 ～近隣住民組織のあり方を考える～ 講師：伊藤光造氏 | |
| 11月21日（土） 9:30～15:30 | 「コミュニティ実施計画づくり」 ～ワークショップによる課題解決の企画書づくり～ 講師：望月誠一郎氏 ・閉講式 | |

コミカレ・ねっとわーく 支部研修会のお知らせ

- 東部支部
10月24日（土）
熱海市世界救世会館
- 中部支部
9月13日（日）
金谷公民館みんくる
- 西部支部
11月10日（火）
掛川市大日本報徳社



編集・発行

静岡県コミュニティづくり推進協議会
〒420-0856 静岡市葵区駿府町1-70
総合社会福祉会館3階
TEL 054-251-3585
FAX 054-250-8681
URL <http://www.sizcom.jp>
E-mail sizucom0829@po.across.or.jp

コミュニティ活動賞募集中!!

応募の対象と条件

- 1、今日的な生活課題、例えば、地域の活性化、高齢者問題や子育て支援、自然環境の保護・保全などの快適な生活環境整備、青少年の健全育成、ゴミ減量やリサイクル活動、国際交流などのテーマに取り組み、生き生きとした明るい地域社会の形成に向けて活動しているもの。
- 2、活動（組織）が発足して、1年以上を経過したものとします。
- 3、平成22年度以降にこの「コミュニティ活動賞」で優秀賞、優良賞を受賞された地区集団については、本年度は応募できません。

賞

- ・優秀賞……賞楯と記念品
- ・優良賞……賞楯と記念品
- ・奨励賞……賞状

発表

平成27年12月初旬
（応募者に直接通知します）

※お問い合わせ、お申し込みは当協議会へ



ホームページをリニューアルオープン（9月10日）タイムリーな情報の提供に努めていきます！